

学会彙報（二〇〇七年一月～二〇〇七年五月）

◇卒業論文梗概発表会

一月十八日（木） 午後四時十分より 於 尋源講堂
終了後、記念写真を撮影し、ビッグ・ヴァレーにて送別懇談会を行った。

◇荒牧典俊教授最終講義

二月二十三日（金） 午後二時より 於 尋源講堂
「The Ontological Philosophy of Mahāyāna Buddhism
—from Mahāyānasūtras to -śāstras—」
後日、三月六日（火）に畑かくにおいて懇親会を行った。

◇Padmanabh S. Jaini 博士講演会

三月二十八日（水） 午後三時より 於 マルチメディア演習室
「Buddhism and Warfare」

終了後、La Pinetaにて懇親会を行った。

◇新入会員歓迎講演会

四月二十日（金） 午前十時四十分より 於 メディアホール
仏教学会会長 織田顕祐教授

「仏教学の可能性」

◇二〇〇六年度に提出された課程博士論文・修士論文・卒業論文は次の通りです。

一、課程博士論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

二、大学院 修士論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

三、文学部 卒業論文

※論文名・氏名
リポジトリ非公開

※論文名・氏名
リポジトリ非公開

※論文名・氏名
リポジトリ非公開

※論文名・氏名
リポジトリ非公開

※論文名・氏名
リポジトリ非公開

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

二〇〇七年度 仏教学関係講義題目

一、文学部仏教学科

専門の技法〈仏教学 学科導入〉 藤谷 昌紀・小澤 千晶
 仏教学演習Ⅰ〈インド仏教入門〉 兵藤 一夫・小谷 信千代
 仏教学演習Ⅰ〈中国仏教入門〉 郎・織田 顕祐
 仏教学演習Ⅱ 箕浦 暁雄・一色 順心・宮下 晴輝

采翠 晃・R.F.RHODES・藤谷 昌紀
 加治 洋一・宮下 晴輝・兵藤 一夫
 一色 順心・山野 俊郎・織田 顕祐

R.F.RHODES

仏教学演習Ⅳ 加治 洋一・小谷 信千代・宮下 晴輝

兵藤 一夫・白館 戒雲・一色 順心

山野 俊郎・織田 顕祐・R.F.RHODES

仏教学概論 小谷 信千代・一色 順心

初期仏教〈阿含・ニカーヤ〉〈講義〉 清水 洋平

アビダルマ仏教〈講義〉 加治 洋一

大乘經典〈講義〉 箕浦 暁雄

中・後期インド仏教思想〈講義〉〈大学院と共通〉 沖 和史

中観思想史〈講義〉 兵藤 一夫

インド哲学〈講義〉〈大学院と共通〉 W.F.KNOBL

チベット仏教〈講義〉 白館 戒雲

中国仏教〈受容期〉〈講義〉 山野 俊郎

天台思想〈講義〉 織田 顕祐

鎌倉仏教〈講義〉 藤谷 昌紀

仏教学特殊講義〈大学院と共通〉 末木 文美士・吉元 信行

初期經典を読む 清水 洋平

般若經を読む 人見 牧生

浄土經典を読む 一色 順心

維摩經を読む 人見 牧生

法華經を読む 采翠 晃

仏教学特殊演習 采翠 晃・小谷 信千代・織田 顕祐・山野

俊郎

パリー語文献演習 加治 洋一

サンスクリット語文献演習 村上 昌孝

チベット語文献演習 白館 戒雲

パリー語 Shoba Rani DASH

サンスクリット語入門 小谷 信千代

サンスクリット語 村上 昌孝

チベット語入門 三宅 伸一郎

二、大学院仏教学専攻

仏教学基礎研究〈文献研究〉

宮下 晴輝

仏教学特殊研究Ⅰ〈講義〉

兵藤 一夫・R.F. RHODES

仏教学特殊研究Ⅱ〈文献研究〉

小谷 信千代

仏教学特殊研究Ⅲ〈演習〉

兵藤 一夫・木村 宣彰・小谷

信千代・R.F. RHODES

仏教学研究（文学部と共通）

沖 和史・吉元 信行・末木

文美士

仏教学研究 松田 和信

インド学研究（文学部と共通）

W.F. KNOBL

仏教学研究〈文献研究〉

山野 俊郎・白館 戒雲・織田 顕祐

編集後記

仏教学セミナー第八五号をお届けします。論文二篇、講演録、海外ニュース、そして舟橋一哉先生と佐々木教悟先生を偲んで、文章を掲載させて頂きました。舟橋先生は二〇〇〇年八月に、佐々木先生は二〇〇五年九月に御逝去されました。すでにずいぶん年月が過ぎてしまいました。両先生が積み上げられた研究を今一度精査し、きちんと評価することこそが我々に与えられた課題であり、学問の世界に身を置く者の責務でありましょう。

御承知の通り、世界の各地で紛争が起こり、様々な社会問題が山積しております。同時に大学の学問・教育のあり方が繰り返しの問い直され、大きな変革のうねりのなかにあります。本学会も、その時々々の状況を注意深く捉えながら、活動を展開したいと考えます。本誌の発行は、様々な学会活動の基礎となる重要な学問の営みでなければなりません。

発行が遅れ、皆様に御迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。より良い学会誌になるよう今後も力を尽くしたいと思っています。

なお昨年度末をもって荒牧典俊教授が任期を終え御退職されました。御尽力頂きましたこと、あらためてお礼申し上げます。

(A.M.)